



## 答え合わせ・解説

問1	答え 2 国学	古事記や日本書紀、万葉集などの古典を丁寧に読み解き、日本独自の精神や歴史を究明しようとする学問を国学と呼びます。本居宣長がその代表的な人物として知られています。
問2	答え 3 異国船打払令	異国船打払令は、漂着した外国船を含め、近づく外国船を例外なく砲撃して撃退するように定めた方針です。幕府の厳しい鎖国維持の姿勢を示したものでした。
問3	答え 2 立憲君主制	名誉革命後のイギリスでは、国王は存在するものの、実際の政治は議会によって決定され、法律の範囲内で権力が行使されるようになりました。これを立憲君主制と呼びます。国王は「君臨すれども統治せず」という原則に近い役割を担うようになりました。
問4	答え 4 朝鮮通信使	朝鮮通信使は、数100人規模の行列で江戸へ向かい、儒教の教えや最新の文化・学問を日本に伝えました。日本側はこれを盛大に迎え、各地で筆談や学問交流が行われました。
問5	答え 4 綿花	綿花、菜種、タバコなどの商品作物は、米よりも利益率が高く、各地の気候に合わせて栽培が奨励されました。これらの作物は、加工業や地域の特産品としても発展しました。
問6	答え 1 水野忠邦	水野忠邦は老中として、質素倹約を強制する人返しの法や株仲間の解散など、天保の改革を断行しました。その一環として、従来の強硬な外交政策を見直し、接近する外国船に対して燃料や食料を与えて帰国させる「薪水給与令」を発令しました。
問7	答え 3 十返舎一九	十返舎一九は、滑稽本というユーモアあふれる読み物を確立しました。彼の代表作である『東海道中膝栗毛』は、弥次郎兵衛と喜多八の二人が江戸から伊勢神宮へ向かう道中で巻き起こす失敗談を、軽快な江戸言葉で面白おかしく描いた作品です。
問8	答え 3 日本橋	「日本橋」は、東海道、中山道、日光道中、奥州道中、甲州道中の五街道が合流・出発する場所として、江戸幕府により道路網の基点に定められました。当時、周辺には魚河岸などが軒を連ね、物流の中心地としても繁栄しました。また、ここから発する街道を通して、将軍の代替わりごとに朝鮮通信使も江戸を目指しました。
問9	答え 2 名誉革命	1688年、議会は国王ジェームズ2世を追放し、新たにオランダからウィリアム3世を迎えました。この交代は大きな内乱や殺戮を伴わなかったため「名誉革命」と呼ばれます。
問10	答え 3 1837年	元大阪町奉行所の与力であった大塩平八郎が、飢え苦しむ民衆のために武装蜂起しました。乱そのものはすぐに鎮圧されましたが、元役人の反乱という事実は幕府に大きな衝撃を与えました。
問11	答え 4 町人	町人は、都市に住んで商売や手工業に従事する人々を指します。彼らは経済力を蓄えることで、幕府や大名に対しても無視できない影響力を持つようになりました。この経済的ゆとりが、江戸の活気ある文化を支えるエネルギーとなりました。
問12	答え 1 産業革命	蒸気機関が改良されて鉄道や蒸気船が登場し、物流が劇的にスピードアップしました。また、綿織物などの工場で機械が活用されるようになり、生産効率が飛躍的に高まりました。これにより、イギリスは「世界の工場」と呼ばれるようになりました。
問13	答え 2 人工島	出島は、長崎港の海岸を埋め立てて作られた扇型の人工島です。当初はポルトガル人を隔離するために築かれましたが、後にオランダ商館がここに移転しました。限られた範囲内で居住・貿易を制限することで、幕府は外国の情報をコントロールしつつ、利益を独占しました。
問14	答え 4 幕藩体制	将軍が置く「幕府」が外交や主要な鉱山などを管理し、各地方を「藩」の大名が統治する二重の支配構造です。石高制に基づき土地と農民を掌握し、参勤交代によって諸大名を統制しました。これにより全国的な安定が長期間続きました。
問15	答え 1 ルイ14世	ルイ14世は「朕は国家なり」という言葉に象徴される通り、強大な王権を振るいました。ベルサイユ宮殿を建設して貴族を住まわせ、王を中心とした華やかな宮廷文化を完成させました。